**令和元年度　霧島市健康・生きがいづくり推進協議会　会議要旨**

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和２年３月１２日（木）　15:30～16：50 |
| 開催場所 | 市役所　別館　４階　大会議室 |
| 出席委員 | 吉満委員、君野委員、岸本委員、吉田委員、花堂委員、中山委員、吉野委員斉藤委員、藤山委員、久保委員、村上委員 |
| 事務局 | 茶圓保健福祉部長【健康増進課】林課長、中村保健予防グループ長、吉村健康づくり推進グループ長、松下主査、東郷主査、黒松主任主事【すこやか保健センター】島木所長、重留副所長、上小園サブリーダー |
| 公開・一部非公開又は非公開の別 | 公開 | 傍聴人数 | ０人 |
| 議事1. 健康きりしま21（第３次）計画の進捗状況と主な取り組みについて
2. 霧島市自殺対策計画　骨子（案）について

（3） その他 |
| 協議結果等の概要　　　　　委：委員　　事：事務局1. 健康きりしま21（第３次）計画の進捗状況と主な取り組みについて

　　⇒　事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問は次のとおり。委：小学校でのフッ化物洗口事業の現在の取組状況は、どうなっているか。 事：平成２7年度から小学校におけるフッ化物洗口事業を実施している。令和元年度現在で35の小学校のうち、30校が実施している。残りの5校については、4校は教職員・保護者説明が終わっている。1校はまだ保護者説明会が終わっていない。残りの5校は令和2年度に実施予定。関連で保育園等でのフッ化物洗口事業についても説明。令和2年2月末現在で、園での52園中38園が実施。園での実施率は、73.1％。小学校のフッ化物洗口事業の説明の部分で、説明してなかったが、フッ化物洗口は希望する方に実施しており、希望しない方には実施してない。希望調査で小学校での希望率91.4％、園では、年中・年長児の96.5％が実施している状況。委：歯科医師会としても虫歯を少しでも減らしたい。霧島市と共に取り組んでいる。歯周病が若年化しているので、早くむし歯をなくして、今度は歯周病予防の方に移行していきたいと考えているので協力をお願いしたい。委：進捗状況の説明で、健康きりしま21のアンケート調査のため、数値がないと説明があったが、どうするのか。基準年度でとったものを全て最終年度で取るのか。事：最終年度にアンケートなどを実施し、評価目標となっている項目についてはすべて評価を行う予定である。委：乳児死亡率が高くなっている理由と人工死産数に占める20歳未満の人工死産割合が増えていることについて、原因が分かれば教えてほしい。事：乳児死亡については、平成29年は、8件あり、乳幼児突然死症候群が１件、他は染色体異常や他の疾患など何らかの疾患があってのものになる。人工死産数に占める20歳未満の人工死産割合については、基準年度の2017年度は4件、次の年が2件、2019年度が1件となっており、件数は、減少している。人工死産を行った者のうちの若年者の占める割合でみているため、全体の人口死産数が減っており、割合では大きくなっている状況である。　委：乳児死亡率は、目標値との開きがあり右肩上がりだったため、気になったが言い方は悪いが致し方ない原因だったのかなと思った。人工死産についての目標値は、統計の数字の出し方、分母の取り方について適切ではないのでは。委：提案ですが、いろんな取り組みしているが、私の知る限りでは、いろいろことに積極的に参加して保健師の話を聞きたいとか、食事指導を受けたい出かけられる街中に住んでいる方はいいが、街の周辺に住んでいる高齢の人は行くのも大変である。出張して地域で話をしたりしてもらえたら、取組の実績があがっていくと思う。事：特定保健指導とかCKDの指導など、訪問をしている、各総合支所では、相談日に保健師が相談業務に行くときに、そこに来て頂いて時間を対象者に合わせて対応している。（２）霧島市自殺対策計画骨子（案）について⇒　事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問は次のとおり。委：ゲートキーパーが住民に一番近い存在ということで民生委員が一生懸命見守りなどをやっていることをわかっているが、民生委員が孤立化している人や生活困窮者にどのくらい声かけができているのか、民生委員と自殺防止対策のことでミーテイングの機会は持っているか。事：健康増進課からはミーテイングという形ではなかったが、今年度は民生委員の定例会に出会して、ゲートキーパーの役割を説明や関係機関の連携リストの配布を行った。事：すこやか保健センターに日当山地区の民生委員会から依頼があり、地域の精神的な問題で悩みを持った方の対応について検討したいと話があり、心の病気のこととその対応について話合いを持った。委：ゲートキーパーや養成講座という言葉を初めて聞いた。地域の見守りについては、各民生委員が自分の持ち回りを必ず見守りしている。実質的な自殺対策になっているのかどうかは不明だが、自殺者を見つけるというのはなかなか困難な状況であり、隼人地区の代表で民生委員を６年間やっているが、ゲートキーパーという話は聞いていない。孤独死があるので、そのあたりに力をいれて、見守りをするように推進している。委：③の勤務・経営に関わる対策の相談窓口の周知及び情報提供を行うとあるが、現状相談窓口はどのくらい活用されているか。計画書骨子の数字に全角半角が入り乱れているので、見やすいように統一をお願いしたい。委：企業の相談窓口はどうなっているか。委：企業としてはいのちの電話というのがあり、工場のトップ電話番号を公開している。何か悩み事があれば電話をして、そのＳＯＳの電話を受信して、それから動くというものがある。各組織に労務問題を対応する社員の配置もある。メンタルの問題と自殺は切り離せないため常に見守りをしながら、産業医、場合によっては主治医と連携しながら未然防止に取り組んでいるが、自殺する人の状況は難しく、いろいろケアしていて、大丈夫だと思っていても、意外な人が亡くなってしまうことが多々あるため難しい状況である。委：資料の「原因・動機別」の状況について、遺族は口をつぐんで根本的な理由は言わないと思うが、これはどこから入手しているデータなのか。事：もともとは警察庁のデータであるが、厚生労働省が集計処理を行い、霧島市の状況として提供されている。委：自殺は、刑法犯、自殺関与罪、ほう助とか、そういったことがあるので、警察は原因をある程度調べて、自殺をほう助したとか、犯罪があるのではないかと調べるため原因をある程度把握することができるということである。委：企業の視点から言うと、原因に「勤務問題」があっても、本当に勤務問題なのか、家庭問題なのか、分からないと思うが。委：自殺があった場合に、警察が調べて、複数の原因がある場合、分からない場合もあるが、一応分類されているということである。委：大きな、統計的な感覚でとらえているということですね。根本原因でとらえるとなると、すごく時間がかかってしまって、迷宮入り原因もあるものですから。それで、どこからデータを提供されたのかなと気になった。委：要望とＰＲも兼ねて。計画書に社会福祉協議会が市からの委託を受けて運営している高齢者に直接支援を行う包括支援センターとあるが、昨年2月には基幹相談センターを開設した。障害者や難病のある方々に対する相談窓口であり、精神障害以外にも悩みを持ってうつ状態にある人とか、相談に来られている状況です。今後は、基幹相談支援センターについても紹介し、障害者の方々への対策という視点も加えてもらいたい。委：自殺者の特徴としての、男性の有職者の同居と独居についてや無職者の同居と独居について、数で見たときと率で見たときの問題をうまく整理して文書にしてほしい。同居であっても、ほとんど会話がなくて、自分の苦しさを言えないということもあるし、独居の場合はもちろん自分一人で背負っていかなければならないという状況があるわけである。委：事務局へ、指摘のあった部分については、今後の改善をお願いする。事：２名の委員から指摘があった点について、表現の見直しや文章を追加していく。事：委員から質問のあった相談窓口の件については、勤務・経営に関わる対策に限ったことではないが、心の健康相談を実施している。月2回、臨床心理士が従事しており、相談を受けている。委：すこやか保健センターで実施しているということか。事：はい、そうである。委：臨床心理士の相談まで足を運ぶのはハードルが高い。電話とか相談ホットラインなどあればよい。自殺者は時間を選ばない。難しいかもしれないが、２４時間、時間を問わず受け付けられる体制が理想である。できるだけセーフティネットの網の目を細かくしてほしい。自：市では、自殺対策の一環として、全庁的に窓口の職員にゲートキーパー的な役割を担ってもらうため調整をしている。相談窓口の周知としては、一覧表（連携リスト）を作っており、民生委員に配布している。市民に広く周知ができるような体制を今後検討していく。今月は、自殺対策強化月間でもありホームページで相談窓口を掲載している状況である。委：ゲートキーパーの養成講座については初めて知った。定例会の中で説明をしてもらえれば、興味を持つ人も居ると思う。自：令和2年度中の民生委員定例会に出会して、連携リスト（相談窓口一覧表）を配布するなど協力をお願いしたい。1. その他

なし |
| 会議資料 | 【配布資料】○令和元年度霧島市健康・生きがいづくり推進協議会会次第○霧島市自殺対策計画書骨子（案） |